（第３種郵便物

11月18日　No.1178
------2013年（平成25年）------
週刊　月曜発行
発行人　河村 勝志
平成元年9月22日　第3種郵便物承認
購読料　年間 24,000円（前納）
1部　520円

週刊 循環経済新聞
The Recycling Economy Times

グリーン発電大分

FIT対応の発電所が完成

西日本初の未利用材専焼施設

グリーン発電大分（大分県日田市、森山政美社長、☎0973・57・2525）は11月8日、日田市天瀬町に建設を進めていた木質バイオマス発電所が完成したため、関係者の施設見学会と祝賀会を開催した。大分県副知事をはじめ、林野庁や県・日田市議会、関係各社約100人が列席した。

天瀬発電所の本格稼働は、11月12日から。発電出力は約5700キロワットで、うち5000キロワットを売電し、残りの700キロワットは自家消費する。山林未利用材を専焼する発電所は、西日本初（全国で2例目）となっており、地域の林業活性化や森林整備が進む期待は大きい。

年8000時間稼働し、年間発電量は4万メガワット時に上り、再生可能エネルギー固定価格買取制度（FIT）に基づく売電を行う。売電先のエネット（東京・港）は、新電力会社（PPS）と呼ばれる特定規模電気事業者。総建設費は約21億円で、プラントの設計・施工は住友重機械工業が担当した。

未利用材などの燃料は、日本フォレスト（日田市）が供給。地元森林組合や素材生産業者など18社で構成する日田木質資源有効利用協議会を収集先とし、年間約6万―7万トンの木質チップを投入する。

同社の森山政美社長は、「FIT施行前から山林で放置されるC材などを、どうにかして有効利用できないか考えていた。FITが追い風になったことはもちろん、関係者の方々の助力をいただき、3月の着工から滞りなく発電所計画を実現することができた。木質バイオマス発電『日田モデル』として今後、同事業において、西日本の指標になるよう管理・運営を進めていく」と話した。（関連記事5面）

グリーン発電大分・天瀬発電所

テープカットのようす